

地域の伝統工芸技術による建築空間デザインの研究・その1 指物技術と建築設計事務所の出会いによる癒し空間

伝統技術 空間デザイン 癒し空間
Traditional Technology Space Design Healing Space

正会員 ○富永 啓司*
同 内野 輝明**
同 三井 篤***

1. はじめに

21世紀は「環境との共生」が大きなテーマである。もちろん、建築空間のデザインについてもそれは当てはまる。地球環境的視野に立つエコロジックなライフスタイルの模索、サステナブル社会の構築などがメッセージとして発せられてきている。

具体的には、

- 1) 地域の資源（木材資源、etc.）を
- 2) 地域の技術（指物技術、etc.）で商品化し
- 3) 地域で消費（癒し空間の提供）する

という新しい発想の「環境共生型経済社会システム」を地域社会に構築していくことであると考える。

建築インテリア市場においては、20世紀末の生活空間、建築価値観、建築文化などを見直し始める兆しが、建築設計事務所のデザインに試みられてきている。そして、そのデザインを可能にしているのが、日本が世界に誇れる木工職人の技術、即ち地域に息吹いている伝統的指物技術である。

本研究は、徳島に息吹いている伝統的指物技術（日本が世界に誇る伝統工芸技術）と建築設計事務所との新しい出会いによって醸し出される空間デザインの美しさ、快適さ、技術的奥の深さを世界に発信していこうとするものである。そして、この研究成果が21世紀社会における地方の経済的自立を促し、地方の時代への対応をシステム化していく萌芽を大きく育成していくことになる。

2. 指物技術による空間デザインとは

建築空間のデザインは、そこを利用する人たちの感性、



図1 空間デザイン(1)



図2 空間デザイン(2)

情緒、心理的要因などを考慮した感性豊かな癒し空間とすることが要求されてきており、伝統的指物技術と建築設計事務所がコラボレーションすることにより可能（図1、図2）となる。

図1は、和風食店舗の入り口を設計したもので、客に、指物技術を応用した癒し空間を店舗内に意識させるデザイン手法。図2は、指物技術が本来持っている和風感性を生かして、店舗内を新しい感性でデザインした手法。

指物技術の新しい商品化を示唆するものである。

3. 徳島の伝統的指物技術

3.1 徳島木工業の歴史

阿波国徳島に古雑抄に御細工人という記述がある。御細工人は、現在の明神町付近に住んでいて、武士の指し物をつくることを仕事としていた。町人大工は、東・西大工町にあって、町人向けの指し物、建築などの仕事に携わっていた。また、現在の徳島市あたりに200余軒の船大工が住んでいて、これらが徳島の木工業の始まりといわれている。

徳島の木工業は、蜂須賀公率いる村上水軍から...、また明治天皇によって、木工コンビナートが福島につくられてから、木工の町として隆盛を誇っていた。

3.2 伝統的指物技術の継承

1) 伝統技術からの進化

・船大工の造作、水車製作からの発展

踏み込み式の水車をつくっていた。すべての部材が、心棒に対して直角ではなく、それぞれの角度をもって組まれている。

・水車の立体美から

単調な模様をリピートしたものが、今は主流だが、富永流（明治28年創業）としては、伝統技術（書院障子など）を継承し、情景、文学、俳句などの造形化を研究する。柳にとびつく蛙の風景（計算図あり）を組子の中に入れる彫刻技術なども研究する。

また、コンクリートジャングルの空間には、木を素材として、気持ちの入ったものを作り出していく。

植物の機能美、曲線、葉っぱの角度などを建具に取り入れた組子。箱の作り方、組み方などの技術を自然の中にある安らぎ感や、やさしさ、自然の感覚で表現していく工夫。

その究極の技術が伝統技術であると考えられる。曲げ、角

度を転ばす、抜く、浮づくる（木の柔らかい部分を草を束ねた道具でこすって堅い冬目を出して凹凸を出して自然な風合いを出す技術）。

すべては自然描写（霞、富士、木、船、亀、麻の葉、松葉）のための技術。菱組、三組手、氷組など・・・。

一般民家は、単純な格子模様。漉き紙のサイズで組子ピッチが決まっている。刹那的に、自然の中にいたいという本能。雪、花...自然の背景を再現する。

2) 四方転び

ちり返し組という組み手の変形であり、比較的新しい組み手。組子の組子手加工、角度加工、転ばしの角度加工。割付、組み方、すべてにおいて遊びがゼロに近い難度の高い細工である。



図3 四方転び技術の継承過程

3) 組子技術の継承

徳島の木工芸を営む人間が本気になって、徳島にある木を使い始めたら山の活性化につながる。それによって生み出された個々の作品を日本と言わず世界にアピールできたら素晴らしい。



図4 組子技術の継承(1)

日本から世界に出て、しみ込んでいったものがある。醤油、酒も。同じように日本の指物技術、光と陰を演出することができる技術。たとえば組子障子。大物小物はあるが繊細な組子をおることで様々な形を演出でき、紙によってぼんやりと透過させれば独特の光の世界が演出できる。

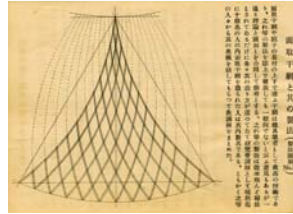


図5 組子技術の継承(2)



図6 組子技術の応用商品

4. 癒し空間の商品化

社会環境の変化の中で、徳島の指物技術も後継者難で風前の灯火。ローテクといわれ、ハイテクからは見下された日本の伝統技術。思いを込めて制作し、指物師、アーティスト、設計者が一丸となって取り組んでいけば、新しい建築空間デザインが拓けていく。郷土の伝統文化との融合、藍染めとの協働による新商品も研究している。



図7 癒し空間(1)



図8 癒し空間(2)

5. まとめ

21世紀は、地域の伝統技術を継承、育成しながら自立していく地域社会が求められている。よい空間デザインとは何か。その解は、そこに生活する人々の感性、情緒、心理的・社会的要因などを考慮した感性豊かな癒し空間をデザインする建築職人たちのこだわり技術と郷土を愛する情熱に隠されている。

参考文献等

1) 富永啓司, 内野輝明, 三井篤: 徳島の建具技術による空間デザイン, 木質構造研究会技術報告集, 2002

* (四代目指物師) Tommy Ke-
**内野輝明建築設計事務所
***徳島大学総合科学部 農学博士

*(Fourth Generation Sashimono Woodworker) Tommy Ke-
** UCHINO TERUAKI ARCHITECTS
***Tokushima University, Dr. Agri.